

令和5年度

# 「研究実践地区の紹介」



東海地区公立小中学校事務研究会研究部

## 東海地区公立小中学校事務研究会 研究部報 実践地区一覽

### 岐阜県

- ・飛騨地区小中学校事務職員研究会 (飛騨地区)・・・2

### 三重県

- ・伊賀公立小中学校事務研究会 (伊賀支部)・・・3

### 静岡県

- ・磐周教育研究会学校事務部 (磐周地区)・・・4
- ・東豆地区事務研究会 (東豆地区)・・・5

### 愛知県

- ・東区学校事務研究会 (名古屋市東区)・・・6
- ・愛日公立小中学校事務職員研究会 (愛日支部)・・・7
- ・豊田市教育研究会事務部 (豊田市)・・・8

問い合わせ先一覽 研究についての問い合わせは、下記へお願いします。

会の名称	名前	学校名	電話番号
飛騨地区小中学校事務職員研究会	重山 佐織	高山市立丹生川中学校	0577-78-1023
伊賀公立小中学校事務研究会	岩瀬美和子	名張市立赤目中学校	0595-63-0707
磐周教育研究会学校事務部	鈴木 芙美	磐田市立城山中学校	0538-32-6108
東豆地区事務研究会	高野 豪優	熱海市立熱海中学校	0557-81-0577
東区学校事務研究会	丸井 柊人	名古屋市立東白壁小学校	052-931-2690
愛日公立小中学校事務職員研究会	竹田真由美	尾張旭市立西中学校	0561-54-1191
豊田市教育研究会事務部	山田 孝子	豊田特別支援学校	0565-44-0738

# 岐阜県

テーマ	つなぐ～これからの学校事務職員像をえがく～		
地区名	飛騨地区	会の名称	飛騨地区小中学校事務職員研究会
研究責任者	重山 佐織	所在地	高山市丹生川町町方1500
学校名	高山市立丹生川中学校	電話番号	0577-78-1023

## 1 研究の概要

飛騨地区小中学校事務職員研究会は、高山市・下呂市・飛騨市・大野郡白川村の三市一村の学校の事務職員（会員数58名）で構成されています。

研究会の内容については、会員相互のつながりを深めると同時に、個人のスキルアップを目指し、学校に帰ってからも生かせる、実践できる内容を計画しました。

近年、世代交代が進んだことや、共同実施の広がり、そしてコロナ禍を過ごした中での気づきから、これからの研究会の在り方を考える時期にきていると考えています。前向きな改革ができるよう、一步踏みだす準備の一年目として、会の運営に取り組みました。

## 2 実践内容

### (1) 異世代交流

「どうせやるなら仕事は楽しく」

無作為に組んだ4～5人のグループで、自分なりの業務改善の工夫のほか、日々の仕事の中で感じていることや困っていること等を出し合い意見交流を行いました。市村の枠、世代を超えた人間関係を深めることができました。

### (2) 交流会

「これからの飛騨地区小中学校事務職員研究会を考える」

コロナ禍で様々なことが制限され、窮屈な時間を過ごしてきました。その経験を活かし、この機会に見直しを含め、これからどのような形の研究会運営がよいか意見交流しました。50年近く続く研究会の良いところを残しつつも、現代にあったものに変えていくきっかけになりました。

### (3) 会報飛騨の発行

役員、原稿執筆者の負担軽減も加味し、今年度は年2回の発行となりました。今年度は、研究会で実施した「異世代交流」の内容を、吹き出しで楽しみながら読めるよう工夫して報告しました。参考になる内容が多く、会員からも大変好評でした。

## 3 最後に

飛騨地区では、本研究会とは別に、飛騨教育事務所主催の悉皆研修が年2回位置付けられており、主に実務研修を中心とした研修会が開かれています。職務内容が複雑になってきている昨今、実務に特化した研修が、県レベルで確実に位置付けられている事は、会員にとって貴重な研修の機会となっており、大変心強いものとなっています。今後も教育事務所の先生方に、ご指導いただきながら、実務・資質ともに向上できるような研修会の在り方を考えていきます。

## 三重県

テ ー マ	子どもの育ちを支援する「つかさどる」学校事務の創造と推進 …伊賀地区の学校事務職員の未来をさまざまな世代がともに考える…		
地 区 名	伊賀支部	会 の 名 称	伊賀公立小中学校学校事務研究会
研究責任者	岩瀬 美和子	所 在 地	名張市箕曲中村 219
学 校 名	名張市立赤目中学校	電 話 番 号	0 5 9 5 - 6 3 - 0 7 0 7

### 1 研究の概要

伊賀公立小中学校学校事務研究会は、伊賀市と名張市の小中学校あわせて 47 名の事務職員で構成されています。

基調テーマを【子どもの育ちを支援する「つかさどる」学校事務の創造と推進…伊賀地区の学校事務の未来をさまざまな世代がともに考える…】とし、学校事務職員としての能力開発、資質向上をはかるため、全体研修会と部会別研修会を行い、伊賀地区の学校事務の未来を見据え、企画・運営・判断力を高める研究活動を進めています。

### 2 実践内容

#### (1) 全体研修会

コロナの影響でしばらく全体研修会をおこなうことができませんでしたが、3年ぶりに参集型で全体研修会を実施することができました。全体研修会では「教育現場をとりまく環境の変化に対応するために」と題して、伊賀市の中学校区のスクールカウンセラーを講師に迎え、スクールカウンセラーから見る福祉と教育について、子どもの生活環境の理解や職員のメンタルヘルスについてなど、専門家の立場からの話を聞かせてもらいました。事務職員が、様々な生活背景を持つ子どもたちに、あるいは健康面で不安のある教職員に対して、どのように関わっていけばいいかなど、日頃の声掛けや接し方についてヒントをもらいました。

また、今年の 8 月に開催されました第 55 回全国事務研究大会福井大会について参加者より還流報告を受け、子どもの豊かな学びを協創するために、体系的かつ相乗的に学校力を高めていく組織開発の重要性について学ぶ貴重な機会となりました。

#### (2) 部会別研修会

資質向上のために、5つの部会を設置し各々の部会で課題を設定し、年間 2 回から 5 回程度研修を行っています。

経験者別やテーマ別などで構成され、初任者や経験 2 年目の者を中心とした部会では実務面での疑問点から 1 学校職員としての仕事の悩みに至るまでをお互いが持ち寄り、ほかの部会員や先輩事務職員が教えあったりすることで資質向上に励んでいます。

またテーマ別の部会では ICT 機器を使用した職員間での情報共有の仕方や統合型校務支援システム、学校集金など相互の市町での取り組みについて情報交流することで、業務改善に役立てています。

このように伊賀市名張市の情報交流や意見交換を行い、両市の事務職員が学び合える場となっています。

# 静岡県

テ ー マ	子どもの豊かな育ちを支援する学校事務		
地 区 名	磐周地区	会 の 名 称	磐周教育研究会学校事務部
研究責任者	鈴木 芙美	所 在 地	磐田市国府台489-1
学 校 名	磐田市立城山中学校	電 話 番 号	0538-32-5171

## 1 研究の概要

磐周教育研究会は、磐田市・袋井市・森町の2市1町、小学校37校・中学校16校の計53校で構成されています。学校事務部は、顧問を含め66名の会員で活動しています。

今年度は、組織運営体制の構築に研究の重点をおき、事務機能の強化を主な研究内容として取り組みました。

## 2 実践内容

### (1) 磐周教育研究会夏季研究講座

学校運営組織の一員として、災害時にはどのような対応をしたらよいか。昨年度、実際に台風による校舎の床上浸水や運動場への土砂流入等の被害を受けた学校の事務職員を講師に招き、講話をしていただきました。災害が起きた時、自分だったらどうするかを考え、グループで話し合ったり、被害状況の写真を見せていただいたりしたことで、自分事として捉えることができました。災害時には、組織で対応する必要があり、事務職員もその一員として重要な役割を担っていることを再確認しました。

### (2) 各地区の実践

#### 1) 磐田地区

今年度は「学校事務再編」と「学府一体校構想※」について研修しました。学校事務再編の研修では前年度まで県教委事務局でその業務に携わった方から、学府一体校構想の研修では市教委の担当課室長から、それぞれ講話をいただきました。どちらも事務職員だけの話ではなく、学校組織として考える必要があり、今後の事務職員の職務のあり方を考える機会になりました。

(※磐田市では中学校区を「学府」と呼び、各学府の小中学校で連携し小中一貫教育を進めています。)

#### 2) 袋井・森地区

「働き方改革」をテーマに日ごろの業務を洗い出し、分類、転用、応用、代用、逆転、結合など業務量を減らす方法を考えました。働き方改革するポイントや目標を決め、グループ内で共有し、実践しました。業務内容を精選し、優先順位をつけることで、仕事の効率化が進み、事務機能の強化につなげることができました。

また、公立学校共済組合静岡支部の「職場の健康づくり支援事業」を利用し、整理収納アドバイザーによる職員室の整理収納に関する講話を聴きました。整理収納することによって、時間的効果・経済的効果・精神的効果の3つの効果が得られ、それが働き方改革にも繋がるということが分かりました。すぐに実践できる具体的な考え方や手法を教えていただいたことで、より良い職場環境へと改善するため日頃の業務を見直すよい機会となりました。

## 静岡県

テーマ	自ら資質・能力の向上を目指すスクールマネージャーの育成		
地区名	東豆地区	会の名称	東豆地区事務研究会
研究責任者	高野 豪優	所在地	静岡県熱海市桃山町7-7
学校名	熱海市立熱海中学校	電話番号	0557-81-0577

### 1 研究の概要

東豆地区は、伊豆半島の東に位置し、伊東市、熱海市の2市の小学校14校、中学校9校、事務職員24名で構成されています。東豆地区事務研究会は、2市で構成される地区として、「東豆はひとつ」という思いのもと研究活動を行っています。

子どもの豊かな育ちを支援する学校事務実現のためには、「教員の子どもと向き合う時間の確保及び学校におけるマネジメント機能の向上」という視点を踏まえつつ、事務職員一人ひとりが自らのキャリアを形成しながら、スクールマネージャーとしての役割を果たすために必要な「5つの資質・能力」(スペシャリティ・統括能力・コミュニケーション能力・意思決定能力・人間性)について、必要感を持ち、主体的に取り組む必要があります。

本会では、地区一丸となり、縦(職階)・横(同世代)のつながりを意識しつつ、互いに情報を共有し、高め合いながら研究を進めていくことで、東豆地区事務職員全体のスクールマネージャーとしての資質・能力向上を目指しています。

### 2 実践内容

本会では今年度、年3回の研修会及び各校で経営参画の実践に取り組みました。

#### (1) 第1回研修会：働き方改革

文部科学省主催の「学校における働き方改革フォーラム」の動画を視聴することで、全国の学校の取組を共有し、視野を拡げました。グループワークでは、「全国の学校における働き方改革事例集」の中から各校で一つずつ事例を選び、自校で実践する場合の課題等について話し合いました。

#### (2) 第2回研修会：学校事務再編

熱海市立第一小学校が学校事務再編の静岡県の研究指定校になったことを受け、学校事務再編の考え方について加配事務職員から講義を受けました。グループワークでは『校務分掌表から給与・旅費がなくなったら…「事務をつかさどる」職の校内での仕事とは』をテーマに、教頭・教務主任の業務の事務職員への移管や、事務職員の職務の在り方について話し合いました。令和7年度以降の全県的な実施に向けて、学校事務再編の研究を自分ごととして捉え、理解を深めました。

#### (3) 第3回研修会：ランドデザイン

静岡県公立小中学校事務職員会の学校事務ランドデザイン「ふじのくにはばたきプラン」の導入研修会を地区の研修内で実施しました。ランドデザイン作成に関わった事務職員による講義とグループワークを行い、ランドデザインの趣旨・内容等を理解するとともに、時代に求められる新たな学校事務像及び学校事務職員像の具現化に向け、各自の資質向上を図る機会としました。

#### (4) 経営参画の実践報告

各校で年間を通して「学校における経営参画」に取り組み、自校の実践について書面で報告をしました。職階に関係なく事例を共有することで、他校の好事例を取り入れ、より発展した実践を目指しました。

# 愛知県

テ ー マ	児童生徒数増加・学級数増加に伴う教育環境の整備について		
地 区 名	名古屋市東区	会 の 名 称	東区学校事務研究会
研究責任者	丸井 柊人	所 在 地	名古屋市東区白壁5丁目7番地
学 校 名	名古屋市立東白壁小学校	電 話 番 号	052-931-2690

## 1 研究の概要

名古屋市東区では平成9年以降ゆるやかに出生数が増加しており、今後の児童生徒数は高止まりの状況が続くと予想されています。また「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律」が令和3年4月1日に施行され、小学校における35人学級が段階的に導入されています。名古屋市においては、令和5年度から小学5年生まで35人学級が適用され、学級数は増加傾向にあります。

今後の児童生徒数や学級数の増加を見据え、安定した学校運営のためにどのような教育環境を整備する必要があるのか追究することを目的に、本テーマを設定し研究を行いました。

## 2 実践内容

### (1) 児童生徒数・学級数増加に伴う確認事項の検討

確認事項を大きく「教室関係の物品」「教室以外の物品」「工事」「給食関係」「職員関係」「自由記述」の6つの項目に分け、会員一人ひとりがワークシートに取り組み、情報を共有しました。

### (2) 確認事項を基にチェックリストを作成

上記のワークシートを基に各項目の必要物品及び必要な手続きをまとめた「児童生徒数増・学級数増に伴う環境整備チェックリスト」を作成しました。

チェックリストには、100以上の物品が記載されています。児童生徒数・学級数増加時に不足しがちな物品をリストアップしました。特に給食関係の物品は4月から必要になるため、一覧にすることで発注漏れの防止を図りました。

工事の項目については、教室内の工事が多くを占めており、近年ではICTを活用した取り組みが増えているため、教室内のインターネット環境を整備する工事も必要となりました。

物品や工事などの経理関係以外にも、学級数が増加することで、職員の手当に変更が生じる場合もあるため、そういった確認事項も記載しました。

今回の研究では、東区全体として児童生徒数・学級数の増加傾向が見られたため、各校に共通する課題が多く見られました。今後も児童生徒数の高止まりが予想されるため、各校の取り組みを共有し、チェックリストという形で残すことで、年度変わりの後任者への引継ぎなど、多くの場面で活用できる成果物を作成することができました。次年度以降も区内に還元できるような研究を進めていきたいと思っております。

# 愛知県

テ ー マ	「戦略的視点での校務運営参画～学校の軍師になろう～」		
地 区 名	愛日支部	会 の 名 称	愛日公立小中学校事務職員研究会
研究責任者	竹田 真由美	所 在 地	尾張旭市渋川町3-2-9
学 校 名	尾張旭市立西中学校	電 話 番 号	0561-54-1191

## 1 研究の概要

愛日公立小中学校事務職員研究会は、11市町、189校、234名で構成されています。本会は「子どもたちの成長を支援する学校事務の実践」をメインテーマに掲げ活動しています。令和3年度に本会の特別委員会にて、「戦略的視点での校務運営参画～学校の軍師になろう～」というテーマで愛知県公立小中学校事務研究大会にて発表しました。目指す「軍師」像は、学校経営に組織の一員として関わり、持続可能な目標を設定し、個人で頑張るのではなく経理・管財の専門性などの持っている資源を人に授け、組織が円滑に循環するような働きかけをしていく者として研究を進めました。

## 2 実践内容

### (1) 特別委員会の発表（令和3年度）

発表では、修学旅行費の支払い方法の改善、衛生委員会への参画と施設巡回、共同学校事務室を活用した各学校の共通課題の解決に向けた実践事例を紹介しました。学校の軍師になるには、「校務運営に主体的に関わり魅力ある学校づくりに貢献する」「他者と協働しながら仕組みづくりを行っていく」の2つの行動が必要との提言があり、そのステップとして、まずは「参加してみる」ことから始め、少しずつ知識や情報などを吸収し、レベルアップしていくとよいとまとめました。

### (2) 特別委員会の発表を受けてアンケートの実施・集約・分析（令和4年度）

発表後の効果を検証するために、本会の事務局調査集約・研究班が特別委員会の活動後を引継ぎ、「特別委員会の発表を受けて新たに実践したこと」について、アンケートを実施し、実践の有無及びその理由、実践内容、成果を調査し、結果を本会HPで紹介しました。

### (3) 事務局調査集約・研究班によるアンケート結果の分析発表（令和5年度）

#### 1) アンケート結果より

「実践したことがある」の内容として、各種会議への参加、学校徴収金の改善等、「今後行う予定である」の内容として、校外学習の旅行業者依頼、教材の整備や見直し、学習環境の整備、カリキュラムカレンダーの作成、市会計予算の計画の見直し、避難訓練の見直しの提案、校内委員会や研修会への参加、コミュニティ・スクールへの参加や支援等が挙げられていました。

#### 2) アンケート結果の分析

「実践する予定がない」の理由として、他の業務へ手を広げる余裕がない、何をしてよいのか分からないの2点が多く挙がりました。解決策として、整理整頓、市町や共同学校事務室など組織全体での取組、パソコン業務上や消耗品管理の工夫で時間を生み出すことや課題解決案の提案プロセスを紹介しました。業務改善に取り組む際の個々の意識の差が課題であるという意見もあり、その差を埋めるために、共同学校事務室での情報共有や働きかけが期待されています。



## 愛知県

テ ー マ	学校事務の能率化をめざして		
地 区 名	豊田市	会 の 名 称	豊田市教育研究会事務局
研究責任者	山田 孝子	所 在 地	豊田市大清水町原山66
学 校 名	豊田特別支援学校	電 話 番 号	0565-44-0738

### 1 研究の概要

豊田市教育研究会事務局（以下、市教研事務局）は、豊田市内の小学校75校、中学校28校、豊田特別支援学校の計104校、122名の学校事務職員で構成されています。市教研事務局には13のブロックがあり、各ブロックから事務職員理事（ブロック代表事務局員）と事務局員を選出し、学校の業務改善と事務職員の資質向上のための活動を行っています。

### 2 実践内容

#### (1) 夏季実技研修会 8月3日

「人生100年時代を生きる」というテーマで研修会を開催しました。今年度から愛知県の教職員も定年延長が始まり、今後のライフプランとマネープランについて、改めて考えるきっかけとすることができました。

#### (2) 各種手引きの整備

各ブロックから選出された15名の事務局員が分担して、「事務必携」「豊田市立学校ファイル内容説明表・文書ファイリングラベル」「市会計事務手引」の内容検討と作成をしています。

「事務必携」については、ローテーションで5つのブロックが点検を担当し、担当ブロックの点検に基づいて事務局員が作成を行っています。

「豊田市立学校ファイル内容説明表・文書ファイリングラベル」については、学校教育課担当者と連絡調整をしながら内容を検討し、作成をしています。

「市会計事務手引」についても、学校づくり推進課担当者との連絡調整のうえで内容の検討、作成をしています。

これら各種手引きを整備することで、正確な事務処理につなげることができました。また、事務局員は主事又は主任で、事務局員としての役割を果たすことで、責任感や学校以外での経験を積むことができ、若手事務職員の育成にも役立っています。

#### (3) 学校事務手引改訂検討会への参加

学校教育課職員と市教研事務局推薦者で構成される学校事務手引改訂検討会において、豊田市教育委員会管理規則、管理基準、学校事務手引全般を総括的に見直し、いっそうの精度の向上を図り、組織的、継続的に内容の改定、編集を進めています。